

平成30年度 月刊 校長通信 1号

(生徒・保護者版) H30.4.24 (4月号)



校長挨拶

保護者の皆さま

学校長窪田善雄です。長野俊英高校4年目となりました。校長4年目というのは、県立高校時代を含めて最長となりました。さらにチャンスいただいたことを肝に銘じ、本校の発展のために力を尽くす所存です。どうぞ、よろしく願いいたします。
(※校長通信は月末に発行します。オクレンジャーでも配信します。)

生徒諸君、家に持ち帰って下さいね。



新任の先生方

本年度、6名の先生をお迎えしました。

教科等	氏名	前任校等	略歴
募集(参事) 地歴・公民	鈴木久男先生	上田市教育委員会	もと中学の校長先生、高校での教頭経験もあり。地歴公民の先生。生徒募集で中学校との連絡調整を担当します。
地歴・公民	永泉常雄先生	須坂市立東中学	S62年度から3年間本校勤務。その後、県外の専門学校や高校を経て中学校で勤務。経験豊かな地歴・公民の先生。
英語	丸山剛史先生	長野日大高校	長く長野日大高校で勤務、学年主任など指導的立場を勤めて来られました。もともと篠ノ井にお住まいです。
数学	森 牧人先生	長野東高校	長野経済研究所に入社後、教員に転職し、県内の中学、高校で教えてきました。京都出身の関西人です。
カウンセラー	和田英武先生	平成学園広報	もと県立高校の校長先生、東御市の教育長も勤めました。英語の先生ですが、生徒相談の専門家でもあります。
カウンセラー 公民	窪田 光先生	新卒	新卒の先生です。大学では心理学を学び、また公民の教員免許も取得しました。カウンセラーとともに現代社会も担当。



●台湾高校生、修学旅行で来校（4/18）

台中市立中港高級中学校の皆さんが来校しました。歓迎セレモニーで周文松校長先生から中港高級中学校の旗と置き物をプレゼントされました。（これもらってもなあ……）こちらからは、観光課が用意してくれた県名産品のオルゴールをプレゼントしました。「贈り物文化」というのは、各国さまざまですね。

**校長ESSAY**

※1年オリエンテーション and 2,3年始業式での話から

「17時って、何時？」 - 「学ぶ」ということについて考える-

今から10年前の平成20年（2008年）4月18日午後5時ごろ、私は突然、見ず知らずの女子高生に声をかけられました。念のため強調しておきますが、声を掛けたのではなく掛けられたのです。自分の人生始まって以来のことであったので、その日の日記に書きとめました。だから、日時まで正確に憶えているのです。

小諸駅の構内を歩いていると構内放送が流れました。「〇〇行きは、17時×分に発車いたします。」そのとたん、たまたま私の横を歩いていた女子高生が突然、「17時って何時？」と聞いてきたのです。女子高生は、極めて短いスカートの制服姿で、左手にイチゴ牛乳のバック、右手にケータイ（当時スマホは出回っていなかった。）という、まさに、“This is a「^{ちまた}巷の女子高生！」”といういでたちでした。私はちょっとびっくりして思わず「分かんないの？」と聞き返すとこの女子高生は「うん。バカだから。」と答えました。そこで「午後5時のことだよ。小学校で習ったと思うよ。12を引けばいいんだよ。」と教えてあげました。すると女子高生は、「私、そういう難しいこと分かんないの。」と言うと、すごい速さでケータイを操作しながら去っていきました。以上は、うそ偽りのない実話です。

12を引くことは、もしかしたら難しいかもしれませんが、少なくともケータイの操作よりは簡単です。おそらくこの女子高生は、「17時が何時か？」ということについて難しいとか、面倒くさいという先入観が先立って、自ら意欲的に学ぶことができなかったのでしょう。しかし、ケータイの操作については、意欲的に学んだのでしょう。つまり、この女子高生は決して「バカ」でなく、意欲的に学ぶことを^{おこた}怠っただけです。

「学ぶ」ということは、人から教えてもらうことが中心になるので、受け身の行為と思われがちですが、そうではありません。紹介した女子高生の例でも明らかなように、どんなに能力があっても主体的に学ぼうとする意欲がない限り、我々は決して学ぶことはできません。学ぶことができるのに、あえて拒否^{きよひ}しているとしたら、それはとても愚かなことです。「学び」は能力でなく、意欲であり、受け身の行為でなく、能動的な行為なのです。主体的に意欲的に能動的に前向きに学んでください。俊英高校は全力で皆さんのそうした学びをサポートします。皆さんの「主体的な学び」に期待しています。

